

平成26年度 学校評価結果報告書

小松市立第一小学校

	自己評価				学校関係者評価 学校関係者評価者による意見	次年度の方向 (改善計画等)	
	評価項目と具体的取組	評価指標	達成度判断基準	取組の状況			
① 組織的な 学校運営	〈企画・学年主任会議の活用〉 職員会議の削減の中で各部・各学年の取組や状況の把握と課題・方策の検討のもと、行き届いた実践がなされる。	【満足度指標】	課題の検討・成果が十分である A: 100% B: 90%以上 C: 80%以上 D: 80%未満	企画会議・学年主任会議を月別に位置付け開催している。教員アンケート「課題を共通理解しその方策を実践している」ABの割合97%。会議等が有効に働き、成果が上がっているが、共通理解したことが実践面につながっていない場合がある。	B 97%	組織作りに対する共通理解と定着が感じられ、素晴らしい。諸会合では目的やテーマの共通理解を持ち、有意義な会合に心がけてほしい。 自己評価達成率100%とは言い、見逃しやすい箇所は常にあるもの。特に児童の姿については見逃しやすいため、より多くの目で見ていただき、情報交換できる場が必要だと思う。	
	〈いじめ・不登校対応〉 いじめ・不登校の情報が教職員間で共有され、いじめ問題対策委員会やスクールカウンセラーとの連携が効果的になされる。	【成果指標】	把握し対応できている A: 100% B: 90%以上 C: 80%以上 D: 80%未満	児童理解の会を月1回開催し共通理解を図っている。6月、11月、2月にいじめアンケートを実施し早期発見早期対応に努めている。不登校児童についても組織的に対応している。教員アンケート「全職員で児童理解に努め、支援員やカウンセラーとの連携のもと対応を実践している」ABの割合100%。			A 100%
	〈危機管理〉 避難訓練や毎月の安全点検の実施により、防災と安全への意識向上を図る。また緊急時の対応を迅速かつ的確に行う。	【成果指標】	質的に向上し、適切な対応である A: 100% B: 90%以上 C: 80%以上 D: 80%未満	避難訓練や安全点検を計画的に実施している。災害図上訓練等でも危機管理意識を高めた。教員アンケート「避難訓練や毎月の安全点検を行い、危機管理の意識の向上が見られる」ABの割合100%。			A 100%
	〈エコスクール〉 各担当・各学年において環境教育を実践し、保全活動には高い意識をもって取り組み、環境保護に寄与する。	【成果指標】	積極的にを行い、成果がある A: 100% B: 90%以上 C: 80%以上 D: 80%未満	昨年度に引き続き、ごみの分別、ロールペーパーの芯や牛乳パックの再利用、電気の節約などに取り組んでいる。教員アンケート「環境に対する意識を持ち、保全に努力している」ABの割合100%。			A 100%
	〈授業力向上〉 学校研究を核として算数科を中心に授業改善に努め、授業力向上を図る。 【学びの指針11条】	【努力指標】	授業力が向上している A: 100% B: 90%以上 C: 80%以上 D: 80%未満	学年ごとに教材研究を行い授業研究を行っている。教員アンケート「授業改善を図る」ABの割合100%。授業力向上チェックシートでは毎月のふり返りのもと重点項目を見直して、改善をめざして全員が取り組んでいる。			A 100%
② 確かな 学力	〈学力の検証〉 今年度つけた学力である「活用する力」の具体化を図り、その検証をはかる。 【学びの指針1～3条】	【成果指標】	定着の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	パワーアッププリントや学力向上アプローチプリント、活用問題のテスト等を実施し解説を行ったし、正答率の低い問題の練習をして定着できるようにしている。算数の学期末テストと数学的な考え方を図るテストの全学年平均が87.3点。	B 87%	算数の取組はとても良い。反面、子どもたちの「考えを言葉にする力」が少し弱いように感じる。もう少し、子どもたちが自主的に「考えをまとめて、きちんと伝える」機会を授業の中で作ってほしい。	
	〈児童の学習意欲の向上〉 学び合う授業やスキルタイムを通してわかることの喜びや学ぶ楽しさを知る。 【学びの指針6条】	【努力指標】	学びの姿勢が身に付き意欲が向上した A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	学び合う授業づくりに向けて場や内容、形態を工夫している。児童アンケート「友達の見聞を聞いて自分の意見を言うたりして、みんなで学び合う授業にしようと思った」ABの割合92.6%、教員アンケート「児童がわかる喜びや学ぶ楽しさを感じるような手立てを工夫している」ABの割合100%。	A 96%	学力については昨年掲げた目標点80%より成果指標が上回り、先生方の努力が実際に効いてきている。今後は、90%以上を目標に、今後の改善計画がうまく進むように期待したい。	
	〈家庭学習〉 計画的に、かつきめ細かに課題を与えて点検を行い、学力の定着を図る。 【学びの指針7条】	【努力指標】	習慣化し、学力につながった A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	「家庭学習たしかめ週間」を行い、保護者に協力を求めながら習慣化を図っている。教員アンケート92.2%、児童アンケート90.7%、保護者アンケート78%。	B 87%	家庭学習については、「たしかめ週間」の成果や課題を各家庭に広める方法を工夫したり、音読カードなど保護者の協力を必要とする宿題をどの学年でも工夫したりするなど「関心を高めてもらえるよう連携を図っていく」。	

	自己評価				達成状況	学校関係者評価 学校関係者評価者による意見	次年度の方向 (改善計画等)	
	評価項目と具体的取組	評価指標	達成度判断基準	取組の状況				
③ 豊かな人間性の育成	〈積極的な生徒指導〉	【満足度指標】	学級集団に満足している児童の割合が A: 100% B: 90%以上 C: 80%以上 D: 80%未満	6月に2年生以上10月には全学年でQUを実施し、児童理解に活かしている。また児童理解シートを活用して児童理解の会で共通理解したり、効果的だった支援の共有化を図ったりしている。教員アンケート「あたたかい人間関係に努めている」ABの合計100%。	A 100%	読書についての取組は、教員・児童アンケートともよくなっている。ただ読んだ冊数を増やしたり時間を気にしたりするよりも、良い本や忘れない本との出会いを見つけてほしい。また、高学年から低学年におススメの本を紹介する、読後感想をタイムリーに効果的に紹介するなどして強制ではない形で本に触れる機会が増えるといい。 道徳の授業の充実には物足りなさを感じる。お互いの授業交流や教材交換等の工夫の積み重ねが望まれる。 地域の人々を招いて道徳カリキュラムに沿った話をして頂いたり、様々な職業の方を招いて話をして頂いたり、実際に体験したりなどの、子どもたちが心から納得できることをさせてあげてほしい。話を聞き放しにしないで子どもたちの間で検討する時間をとってほしい。	次年度も児童理解の会を充実させ、全職員の共通理解のもと個に応じた対応を図る。また、児童の主体性を生かした活動を通して、居心地のよい学級・学校づくりに努めていきたい。 家族読書の取組を工夫し読書の大切さを家庭に発信する。「いつでもマイブック」の浸透を図り、週末読書や読書タイム、すきま時間の活用を行うように、職員を意識を向上させる。また、利用図書が増えるように関連本の学年貸し出しのさらなる活用が図れるよう工夫し、国語の読む力につなげたい。 道徳の校内研修を来年度も行い、授業のスキルアップを図るとともに、各教科等の活動や学習において、キャリア教育の視点を共通理解して指導にあたる。地域のゲストティーチャーを招いた授業を次年度も計画的に行い、自己肯定感を高めたり、愛校	
	〈読書活動〉	【成果指標】	読書タイムが充実している A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	「いつでもマイブック」を合言葉に、図書館の利用を増やすとともに読書タイムを有効に活用している。教員アンケートABの割合85.7%、児童アンケートABの割合92.7%。 1学期と2学期の一人あたりの貸し出し平均冊数78.3冊				B 89%
	〈キャリア教育の推進〉	【成果指標】	活用を図り意欲的に学ぶ姿がある A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	道徳と総合を計画的に実施し、道徳性を育てながら、地域の方から学び郷土への関心を高めたりしている。教員アンケート「積極活用を試みている」ABの割合78.3%、児童アンケート「よりよい自分になろうと努力している」ABの割合88.5%。				B 83%
④ 健やかな体の育成	〈健康教育・自己管理能力の育成〉	【成果指標】	成果があり意識の向上が見られる A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	養護教諭が健康指導を、栄養教諭が食育を全学年に行った。担任は教科や特活で機会をとらえて健康教育を行っている。教員アンケート「児童の自己管理能力の向上がみられる」ABの割合100%、児童アンケート「健康的な生活に気をつけている」85.7%。	A 93%	児童の健康づくりに向けて、向上が感じられる。養護教諭・栄養教諭からの発信。PTA活動との連携もあり、効果があったのではないかと。 スポチャレ等を通して、骨折や重大事故につながらない体力づくりを大事にしてほしい。目標を与えるつもりで、小体協の行事参加やチャレンジをどんどん行ってほしいし、それぞれの結果が、少しでも前年を超えるように指導してほしい。		
	〈体力づくり〉	【成果指標】	成果があり、積極参加がある A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	学期ごとに種目を決めてスポチャレに体育や休み時間を利用して取り組んだ。小体協の行事にも多くの児童が参加した。児童アンケート「スポチャレや体育で進んで身体を動かしている」ABの割合94.6%。			A 95%	
⑤ 家庭・地域との連携	〈地域と児童の関係〉	【努力指標】	挨拶や関わりが向上している A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	児童会やPTAの活動で挨拶運動を行っている。教員アンケート「挨拶や感謝の気持ちを表すことができる」ABの割合93.9%、児童アンケート「挨拶やありがとうを言っている」ABの割合92.4%、保護者アンケート「気持ちよい挨拶をしている」ABの割合72%。	B 86%	挨拶運動は、学校内では先生方の指導で、定着してきたと喜んでいるが、まだ足りないので高学年主体の挨拶運動を活性化させてほしい。また、PTAや地域の方と協力して、元気な挨拶ができる子どもを育成する活動が必要かもしれない。グッドマナーキャンペーンではPTA全体の課題として取り組むことで、挨拶力のアップや道徳心の向上になればと思う。 児童の地域での様子(行動、挨拶等)については、地域の方々との情報交換が常に必要だと思う。 地区別懇談会を各町内ごとに開催しているのは素晴らしい。地域環境も肌で		
	〈情報発信〉	【努力指標】	保護者が理解している A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	学級懇談会、ホームページ、お便り、地区別懇談会等で情報を発信している。教員アンケートABの割合100%、保護者アンケート「教育目標や教育方針を分かりやすく伝えている」ABの割合85%、ホームページを見たことのある保護者63%。			A 93%	